



ヘンダーソンビル 留学日記



桂高校では、昨年8月から12月までの5カ月間、姉妹都市である米国テネシー州ヘンダーソンビル市にある国際姉妹校、ビーチ高校、ヘンダーソンビル高校に長期留学生2名を派遣しました。今月号と来月号の2回にわけて、お二人の感想を紹介します。

アメリカ留学を通じて 水上 康彦

2002年8月16日からの、アメリカ・テネシー州のヘンダーソンビル市での留學生生活を終えて、12月27日に帰国いたしました。

はじめ、留学を考えたとき、とても迷いました。というのも帰国後に様々な不利なことが生じると思ったからです。事実、たとえば受験勉強にしても、成績にしても、多少のハンディーはあります。しかし、アメリカで、しかもネイティヴの方と一緒に生活できる機会など人生の内でもなかなかないだろう、そうだったから早い時期に経験しておきたい、そう考えて今回の留学に踏み切りました。

アメリカに渡る前には勿論いろいろな不安がありました。たとえば「自分の英語が通じるのか」とか「ホストはどんな人か」とか「アメリカの文化には適応できるか」、または「学校は大丈夫か」等々。

しかしアメリカで経験を積むに従って、自分はいろんなものを得ることができました。たとえばやはり英語のスキルです。しかしもつと違うものがありました。たぶんそれは「自信」だと思います。アメリカで、全く知らなかった土地にいて約5カ月の生活したことは自分に「自信」を持たせてくれたでしょう。

また、俗に言う「異文化コミュニケーション」の素晴らしさを再確認できたことも大きなプラスになったと思います。たとえばアメリカの方が日本語を使えない、理解できないとしても、「折り紙」であったり「寿司」であったり、日本のものに触れることで彼らに日本について少しでも知ることが出来ます。それが本当のコミュニケーションだと思います。

今回の留学で得たものは必ず自分の人生に多かれ少なかれプラスになると信じています。今回の留学のため尽力してくださった先生方、友好委員会の方々、そして両親に感謝します。



水上君が通ったヘンダーソンビル高校



暮らしに役立つ情報

覚えのない債務の返済請求に要注意

「根拠のない請求」が電報で寄せられています。

借金の取り立てらしき請求が電報で届き、まずドッキリとさせられます。また、「最終通告」「強制回収」「手段を選ばず執行」とか「家財差し押さえ」などの威圧的な言葉が続き、連絡の電話をかけさせるように仕組んでいる事も文面から伺えます。「お悔やみ電報」・「お祝い電報」として、文面は様々で不特定多数の人に送られています。

【対処法】

覚えのない債務の返済請求には

- ①送金しない。
- ②無視する。
- ③相手の電話番号がわかって、絶対に連絡を取らない。
- ④もし、勘違いして送金してしまった場合は警察に被害届を出す。



問合せ 山梨県消費生活センター ☎0552(35)8455